「僕」

「僕」は今度新に道路改良會幹事を命ぜられた新米である。親が付けてくれた名前は別にある、それだのに「なをた生」などゝ變な名乘りを擧たげのには少し意味があつての事、覆面子でもよい、暫く本名を名乘らないで置き度い氣持があつて「なをた」などゝ名乘る次第です。

手品には種明しを一寸やつて見せるとお客は喜ぶ、僕は人氣がほしい譯でもない、けれども「なをた生」とは餘りにも變な名だから、どうしてそんな名を選んだか一寸種明しをする事にしよう。

なをた生と本字で書く時には直太生といふ字があてはまる。益々判らないが之れを棒よみにするとチョクタイセイとなる。こゝまで種明しをすれば頭のいゝ讀者はハヽアあいつかともう御判りになつた筈だ。

なをた生

なをた生は野武士である、近頃本省のめしを喰ふようになつて勝手がわからなくてめんくらつておる。とても短氣でつまらない事に怒りつぽくて喧嘩早いのが特徴だといふから仕末のわるい男にちがいない。それもその筈、なをた生は五年懸りでとても大變な權力を向ふへ廻して、云はゞ五ケ年繼續事業で喧嘩をして勝つて歸つた許りなのだ、ダカラたいていの權力を屁とも思つちや居らぬ。こんな野武士がなをた生なのだ、厄介千萬な人物を改良會はひつぱり込んだものさ。

なをた生は戰勝の餘威を藉つてぐるり八方にあたりちらして見たい、大變な代物なのだ、何をやるか判つたものぢ

やないといふのが「なをた生」に懸けられた期待の凡てゞあらを。なをた生は是を以て新入りの御挨拶に代へる。

道路改良會について　なをた生

道路改良會のそも〳〵の始まりから僕は緣があつて道路改良會を知つてゐる。米國の何とかいふおやぢに東京の道路には稻を植へろとか、日本には道路のルートだけあるとか變な侮辱を與へられて東京のお歷々がめんくらつたのが我が道路改良會の緣起なのだ。

ダカラ道路改良會としてはその發端の二十年前の事から考へれば、今日東京市中だけでも八割以上――實質的には殆ど全體がともかくも鋪裝された今日から見れば隔世の感があらふといふもの、それだけに道路改良會も古くなつた。十年一昔と云ふが早くも二タ昔に手が屆きかけて居る。古くなつたものだ……開闢以來我が道路改良會の幹事として我國道路の改良の爲めに盡されて來た諸公の中には相當古い人が多い。尊敬すべき大功勞者の多い事は知つてる。しかし、大功勞者もその過去の功勞に甘んじて努力を怠り、新らしい空氣を吸ふ事を怠つた日には「古い存在」以外の何物でもなくなる。コンナのは日進月歩を誇る我國路政界からはもはや何の期待もかけられない存在だ。古い許りが能でもあるまい。聞けば道路改良會には相當澤山な基本財產があるそうな――每年その會計は公表されるのだから八萬圓許りも貯つてるといふた處が叱られる譯でもあるまい――その八萬圓を徒らに死守する代りに何かもつと積極的な所謂改良會の事業の爲めに振り向けては如何ですか？

お前は改良會の幹事ぢやないか、そんないゝ智惠があるなら言ふて見ろと云はれるにちがいない。ダカラ僕にも一ツや二ツ智惠が無いでも、無いその智惠は八萬圓の內をいくらか引張り出して使ふ工夫になるのですが、それでもよろしければいつでも申しませう。イヤ、假に全國の會員から智惠を集める事が出來れば、どんなにでもいゝ智惠が集まるにちがい無いのです。その智惠をかきあつめて來年はもつと積極的に我邦路政の爲めによりよき貢獻をしたい。

是れが僕の新入り第一日の所感です。